川口町公民館報
公民館報
第44号
発行人 星野輝政
編集人 金子真
印刷所 山静堂印刷所

昨年より七六〇万円の増
町長の予算編成方針

一、昭和三十五年度予算編成の方針は極力消費的経費の抑制をはかり、経常的経費の確立に努めたこと。

二、才入において町民税が県内各町村に比較して高率であったので、約百万円（年間六百万円のところ百万円）減税し、区間漁納整理に力を注ぎ悪質、多額の滞納者については強制徴収を実施するも已むを得ない方針であること。

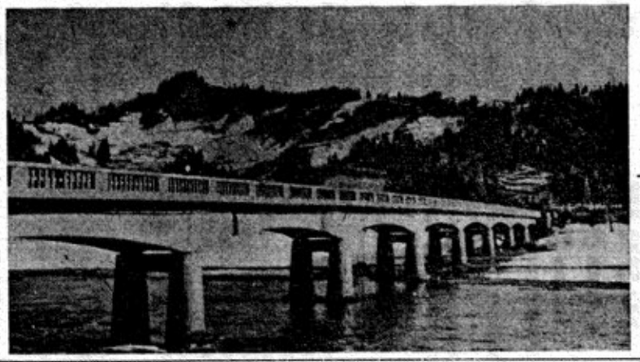
三、才出

1. 農会費は農員の報酬が増額されたこと。
2. 臨時的経費については道路橋梁学校その他の庁舎の営繕費など年度内にどうしても施行しなければならないものは当初予算に計上したこと。
3. 災害や義務負担、又は事業費の財源として約五百万円程度の財源を保有したこと。

特別会計

国保	2,362万円
東部水道	123万円
田麦山水道	30万円
和南津水道	16万円
ガス会計	1,950万円

ことしの町の予算



内他町村に比較して低額であるので若干の増額を図り、区間食糧費等の消費的経費の節減に努めたこと。

2. 役場費においても消耗的経費の抑制には大いに努めたが、県内最下位にある給与水準の給与費については給与改善を行って、職員全体の志気を鼓舞し、個々の選材を適所に配し、公務能率の増進をはかるとともに、職員の生活安定と勤労意欲の振作に資するため、定期昇給等の職員給を増額したこと。

3. 消防費については、長年懸案であった団員手当を若干増したが、施設の面においても一、二年間停滞してあった備品、その他の施設の充実をなし防火体制の整備をしたこと。

4. 土木費については、昨年の台風による公共土木災害を復旧するため、約五十万円の増額をしたが、各種裁稿負担金が昨年より七十万円減ったので総計においては多少の減額となったこと。

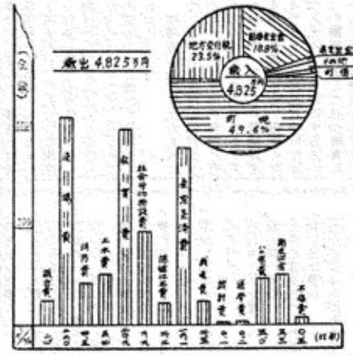
5. 教育費は、差引昨年より二百六十万円の増となっている。この内容は川口中学校の校舎傾斜復旧費、全校のテレビ施設費、教科改定費、児童生徒の航路の帰人費、田麦山小のピアノ購入費など、教育興隆の実を挙げるべくつとめつゝあること。学校統合については年内に位置の決定をみて三十六年度から補助、起債を確保して施設したいこと。

6. 社会労働費は、失対事業を百二十五万円増額して農道、町道の整備をはかるほか、厚生費の整備に重を用いたいこと。

7. 産業経済費においては、新兼村事業、急傾斜地帯農道、鉄山小のピアノ購入費など合計五百十七万円の増額を図り農業振興のための公共用施設の充実を期したこと、又各種団体の助成については開田農業、七地改良、長道改良等公共的共同施設への助成に重点をおいたこと。

8. 特別会計に関する事項

いづれの会計でも健全財政の確立はいうまでもないが、特に別会計の運用に当っても特に



一般会計
四、八二五万円に

昭和三十五年度の一般会計町民の台所を歩少でも豊かにしようというこれらになっています。

この外に特別会計がありまして、その予算は上記の通りであります。

予算には一般会計と特別会計とがありまして、一般会計とは特別会計を除いたすべての事業費や事務費を含む会計のことで、ガス水道のように特別会計とは別に、独立採算制で運営し、収支の結縁をするため一般会計から分離して設置する会計であります。

先づ一般会計から説明します。

歳入

才入のなかを大きく区分すると、税金、交付税、補助金、借入、その他の才入ということになります。

一、先づ税金ですが、民税においては今年は百万円減税し独立採算制を立前として、まず定額面税より多いことになります。使用料、手数料については、公営住宅とか、町有の山林などの使用料で約一〇〇万円、戸籍の手数料、証明料が二七万円であります。

四、補助金の主なるものは、新農村事業一二四万円、急傾斜地帯農道事業一九八万円、農地農業施設災害復旧費一九八万円、失対事業費二〇〇万円であります。

その他の才入も相当数ありますが紙面の都合上省略します。

歳出

才出については前年度より七六三万円増ました。

増額された内訳は農業経済費五一六万円、教育費二五九万円、失対事業費一二五万円、消防費五三万円、役場費四八万円が主なるものでありまして消費的経費をできる限り抑制して、投資的（事業費）経費の充実に重点が払われております。

では各款ごとに説明いたします。

議会費　一一五万円

議会費は皆さんが選出した議員に関するすべての費用で二十二人の議員さんの報酬、費用弁償それに議会運営に必要な経費が計上されています。主なるものをひろってみますと

議員報酬　九万円
諸手当　九万円
旅費　三六万円
備用費　一六万円
研修費　五万円

役場費　一、〇六四万円

役場費は御承知のごとく川口町の事務の中心をなしている役場の経費で、才出予算の中でも第一番目の大きなもので、約二十五%を占めています。このなかには町長さん以下役場職員の給料、諸手当などの外に、町政運営に必要な学校のピアノ購入費二〇万円、研修費、事務費が主に含まれています。

また田麦山の支所費も各部落の連絡費手当もこの中です。役場の職員の給与水準は年博人学歴経費が含まれ、公民館だよりもここからでるのであります。

社会労働費　四七八万円

この款の内容は民生委員費や授護費、児童福祉費に遠族会費、未亡人会、戦傷病者会の諸助金や経費が見込まれてあります。

厚生関係費、失業対策事業費のほかに国民年金費が含まれています。

項目別金額は次の通りです

一、厚生費　五六万円
二、職業費　五万円
三、失対費　四〇五万円
四、住宅費　五万円
五、国民年金費　七万円

保健衛生費　一〇六万円

町民が常に健康で明るい文化的生活を営むためには、いろいろの病気、特に伝染病や結核をなくしなければなりません。もちろんそれには病気の発生源であるゴミの処理、ハエ、カ、ねづみの退治とともに予防注射や時折健康診断をしなければなりません。

これらのことを行うのが保健衛生費です。

この内容は結核予防費二〇万円、予防注射費一〇万円、伝染病予防費六九万円などがあります。

その事業費は、学校使用に関するもの、ガス水道の事業費、学校費、社会教育費の三つになります。

教育委員会費とは教育行政を執行する五人の教育委員とその事務職員、学校使用に関する給与費と事務費であります。

学校費は各小、中学校の維持管理費及び子供の机、腰掛等の備品と事務費でありまして先生の給料は県からでていますので含まれていません。

この経費のうち主なる事業費は川口中学校の校舎傾斜復旧費五二万円、テレビ購入費六〇万円、児童、生徒の机腰掛購入費四七万円、中学校の教科改定費三〇万、田麦山小のピアノ購入費二〇万円などであります。

社会教育費とは公民館運営経費であって約八〇万円計上されています。

そのほかに国民年金費が含まれています。

項目別金額は次の通りです

一、厚生費　五六万円
二、職業費　五万円
三、失対費　四〇五万円
四、住宅費　五万円
五、国民年金費　七万円

保健衛生費　一〇六万円

町民が常に健康で明るい文化的生活を営むためには、いろいろの病気、特に伝染病や結核をなくしなければなりません。もちろんそれには病気の発生源であるゴミの処理、ハエ、カ、ねづみの退治とともに予防注射や時折健康診断をしなければなりません。

これらのことを行うのが保健衛生費です。

この内容は結核予防費二〇万円、予防注射費一〇万円、伝染病予防費六九万円などがあります。

その事業費は、学校費、社会教育費の三つになります。

教育委員会費とは教育行政を執行する五人の教育委員とその事務職員、学校使用に関するもの、ガス水道の事業費、学校費、社会教育費の三つになります。

学校費は各小、中学校の維持管理費及び子供の机、腰掛等の備品と事務費でありまして先生の給料は県からでていますので含まれていません。

この経費のうち主なる事業費は川口中学校の校舎傾斜復旧費五二万円、テレビ購入費六〇万円、児童、生徒の机腰掛購入費四七万円、中学校の教科改定費三〇万、田麦山小のピアノ購入費二〇万円などであります。

▼ちょっとの気のゆるみから▲
交通事故があなたにも

◎子供と交通禍

父母又は先生方に特に訴えたいことは、最近幼児、学童などの低年層の交通事故が増えていることであります。

昭和三十四年度上半期だけで全国

六才未満の幼児の死傷者　七、三一八人
六才より十二才までの学童　七、五五八人

で被害者全体の20%近くがこの二つの年令層によってしめられております。これらの事故原因は

1. 車の直前直後の横断
2. 車道にとび出したため
3. 幼児の一人歩き

等の順になっております。

低年層の事故防止については、家庭にもとより学校でもふだんから教えこんでおくことが何よりも大切だと思います。

交通禍は他人ごとではない。

全国の交通事故を一日平均すると

件数　五三二件
死者　二六人
負傷者　四九六人
物損　略

というほう大なものとなります。

事故防止上最も大切なことは1.交通規則をよく知りこれを守ることです。

2.お互がゆずり合いの気持をもつことです。

3.急がないことです。

◎入学児童を交通事故から守ろう

喜びにあふれて入学した一年生と共に都事の交通量も本格的に増加しつつあります。

交通訓練のできていないこれら幼児童の通学は最も心配されていることであるが、なんとしても交通事故より守らなければなりません。

家庭、学校における注意指導は最も大切であるが、次のような実行を望みます。

一、朝の登校は早めに、時間的に余裕をもたる。

二、上級生の子供と同行させよくみてもろう。

三、下校時はなるべく近くの者と一緒に、急がせない、焦らせない、ふざけさせない。

四、走行中の自動車の直前直後の横断危険、踏切、三叉路における通行方法などの注意指導。

五、正しい右側通行を励行させる。

◎道路を広く使おう

最近交通事故防止の一端として、道路を広く使おうという運動が各地でなされております。熊雪と共に本格的交通量も遠くありません。

川口地域の交通事故も年ごとに増加しております。

良くない道路条件、特に市員のせまい道路を最大に使用できるようにいたしましょう。

町は常にきれいに美しく積おろしのためや、とりかたずけの一時的荷物は別として道路に材木、石、薪炭類を置いたり店舗の路上進出、看板類の不整理はよくありません。

冬季間でしばらくとだいた交通、うすらいだ間に新たにして交通環境の整備と共に交通事故防止に努めてください。

役場職員一部異動

四月一日付で発令のあった職員の異動左の通り（）は旧所属のもの。

蓋業課長　大潮　継綜（田麦山支所）
支所　横井義治（蓋業課）
社会課厚生職員　真島早苗（〃）
社会課所生　関鉄一郎
総務課　戸籍住民登録　大村京二
国民年金（税務課）
税務課（民税）　古田島博英（総務課）
総務課（国民年金）　水野トミ（社会課）
蓋業課　岡村生子（総務課）
新採用
総務課　和
土木課　丸山裕子
山田
計　四、八二五万円

以上一般会計の概要を説明しました。

この外に特別会計として国保会計、水道会計が三つ、ガス会計があります紙面の都合上後日にまわします。

説明が簡単でおわかりにならない点や御不審の点がありましたら御遠慮なく役場まで御照会下さい。

農業講座をふりかえって

今日は何人位集まるだろうか、十時迄に二十人位来てくれるだろうか……と一月二十日から、三月三十日までの間いつも水曜日になるとおのゝ考えが真っ先に私をおそったものだ、しかも何人位の受講者が来るかなんていうことは、誰にも解らない。

主催者の自己満足かも知れないが、取り上げた内容がなかなか一方的で地域の実態に添わないものが見られたために思われたが、反省し今後開設する何かの講座によい指針となるだろう。われわれの町をもっと住みよいものにする為にこの講座を通して社会教育をそなえてい

の燃焼意欲を高めるとともに、集まって欲しい、集まれば集まる程その成果があがるものと考えたい。

この度の講座には多い時で七十人、少ない時は十二、三人というさびしいものであったが、はじめての催にしては極めて良好といえよう。

まであった。何も大勢集めるだけが社会教育じゃないといえばそれまでだが、やはりこの講座にはたくさん人が集まって欲しい、集まれば集まる程その成果があがるものと考えたい。

この度の講座には多い時で七十人、少ない時は十二、三人というさびしいものであったが、はじめての催にしては極めて良好といえよう。

主催者の自己満足かも知れないが、取り上げた内容がなかなか一方的で地域の実態に添わないものが見られたために思われたが、反省し今後開設する何かの講座によい指針となるだろう。われわれの町をもっと住みよいものにする為にこの講座を通して社会教育をそなえていく重要性を再認識する必要があると思う。

開講より閉講まで一日も休まず受講された中山の渡辺さんはじめ受講された方々がそれぞれの地域のよき指導者として活躍されるよう期待した

教員一覧異動人事

転出	氏名	郡市	任学校名	旧任校	郡市	任学校名	旧任校
池田	義正	柏崎	川口小	柏崎	南蒲石中	木沢小	川口小
渡辺	達雄	南蒲	続石中	南蒲	続石中	木沢小	川口小
内山	芳子	南蒲	中野小	南蒲	中野小	川口中	川口小
小島	光作	魚	六日町中	魚	六日町中	和南津小	川口小
小林	誠一郎	西蒲	神谷小	西蒲	神谷小	木沢小	川口小
山田	貞雄	五千石小	五千石小	五千石小	五千石小	田麦山中	川口小
佐藤	カヲル	小千谷	小千谷小	小千谷	小千谷小	泉水小	川口小
長谷川	周子	小千谷	柿崎中	小千谷	柿崎中	川口中	川口小
森山	真貫之助	北魚	下条小	北魚	下条小	田麦山小	川口小
斉藤	仁吉	魚	高道山小	魚	高道山小	田麦山中	川口小
退職	晃	魚	川口小	魚	川口小	泉水小	川口小
転入	氏名	郡市	任学校名	旧任校	郡市	任学校名	旧任校
高橋	会作	川口小	柏崎	南蒲石小	南蒲	続石中	木沢小
相沢	拙	田麦山小	松代小	東頸	松代小	川口中	和南津小
高橋	厚子	川口中	広瀬中	北魚	広瀬中	和南津小	木沢小
熊川	昭二	川口中	伊勢	仙田中	伊勢	川井小	泉水小
石山	高司	泉水小	須恵	小千谷	須恵	十日町	泉水小
高野	松郎	木沢小	石山	十日町	石山	高道山小	田麦山中
小林	政雄	田麦山小	高司	高道山小	高司	中魚	田麦山小
河野	篤	川口中	松郎	中魚	松郎	刈羽	田麦山小
舟辺	允康	田麦山小	小林	北魚	小林	二田小	田麦山小
土田	弘	木沢小	政雄	魚	政雄	新採用	和南津小
太田	和夫	田麦山中	篤	新採用	篤	新採用	新採用
小師	崇	川口中	舟辺	新採用	舟辺	新採用	新採用
金山	昭夫	川口小	土田	新採用	土田	新採用	新採用

春

河口奏子

雪の中にうずもれて待った春——
待ちわびた春だった
かさ〳〵と雪はくずれ
川の水はぬるみ……そして増し
少女のほおは　輝やき
ついに　春がやってきた
待ちわびた春だった
そよ風の中に立つ　私の髪は
春の花のようにけむる
やわらかな　ハーブの香りのように
春は　あまく私を包む
そうだ！
白いセーターを着て
ねこ柳の光る
土手の道をかけて行こう
幼い日の夢が
私の心によみがえってくるだろう
思い出と希望の中で
新しい春を生きよう

▼リレー随筆▲ 先生と云われる程の馬鹿でなし

川口中　岡村芳夫

師範を受験しようとして、校医である小千谷の山本医師（故人）の診察を受けに門をたゝえた時に、先生の発せられた言葉を、二十一ケ年の教員生活中時々思い出して見る。

その頃は若さに燃えていたのでその意味をよくわからなかったが、子供を持ち、父兄との繋りを深め、次人に合う様に従って、この意味が次第にはっきりしてきたような気がする。

社会一般の職業で二十年も経験すれば、もう一人前である。その道の達人である。しかしながら子供の教育に従う自分は来る年も来る年も同じような事を繰返し、何等これという進歩も見られない。時々会合で一パイ機嫌でわが家へ帰ると、家内や子供にひやかされる。

教師である自分が自分の子供さえ満足に教育も出来ず時々親の権威を振う。

子供が学校における子どもの地位を変ってくる。

第一に子供は一日の一定の時間を完全に親から離れて生活する。家とちがった新しい生活の場で、教師という他人である大人とそして多数のよその子供と一緒である。

そこで子供は親から離れて自分の力で生きて行かねばならない。ここに自立性が芽生え身体も段々大きくなり、環境に適応する態度や知性も発達する。こうなると親も子供に対する態度を変えねばならない。

第二に親は自分の生活経験を子供におしつけようとする時代も移り変った事を忘れて只々権威をおしつけようとしている。時々「先生のところはいゝの、二人して働いて二人して子供に教えられて二人に入るのはこれ位の給料でもあるし、いゝのは税金が高い位の処であるしいゝのは何もない。経済観念も乏しく、世間のつき合いも甚くつまらない見栄をはり、時間的なゆとりも取れず、年中あくせくばかりしている。

只楽しみが一つある。教えた子供が年々才立校に成人して行く姿をながめる事がそれである。

次は和南津の関平吉氏に御願いします。

（二頁へ続く）

川口町小、中学校学級編成一覧表

学校名	教員数	学年 児童 生徒数及び学級数 1年	学級数	2年	学級数	3年	学級数	4年	学級数	5年	学級数	6年	学級数	計 児童生徒数	学級数
泉水小学校	9	27	1	36	1	45	1	39	1	45	1	63	2	255	7
和南津小学校	4	15	1	22		12	1	41		20	1	16		106	3
西川口小学校	7	40	1	36	1	44	1	41		52	1	54	1	267	6
川口小学校	14	67	2	61	2	60	2	70	2	83	2	70	2	411	12
田麦山小学校	9	29	1	40	1	27	1	38	1	33	1	36	1	200	6
〃 小高分校	3	5	1	17		7	1	11		14	1	13		67	3
〃 山ノ相川分校	2	8		7	1	8		5		11	1	11		50	2
木沢小学校	5	16	1	19		16	1	16		20	1	23	1	110	4
川口中学校	15	178	4	146	3	98	2							422 特殊1	10
〃 木沢分校	2	21	1	14	1	14								49	2
田麦山中学校	6	34	1	28	1	33	1							95	3
〃 山ノ相川分校	1	5		4		3								12	1
小学校　計	53	207		238		219		241		278		286		1,466	43
中学校　計	24	238		192		148								587	16